



1\_内子本町通り商店街に位置し、店頭のしゃべる人形が目目を引く同施設 3\_正面にある鏡文字の看板が目印 4\_特別講演会の様子。内子児童館敷地内には、伊勢舎の遺構として当時の戸井が残されているそう

### 時代を超え、商いと暮らしを伝える 「旧佐野家住宅」が国の登録有形文化財に

旧佐野家住宅は国の文化審議会から登録有形文化財（建造物）とするよう文部科学大臣に答申され、12月3日に正式に登録されました。

同住宅は明治中期から昭和59年まで酒造業や薬屋を営んだ商家で、今回登録されたのは主屋と土蔵、離れの3棟。特に主屋は幕末と明治の建物を一棟に改修しており、町の発展を伝える建造物として評価されました。

現在は「商いと暮らし博物館」として公開されており、主屋では大正10年ごろの薬屋の商いと商家の生活、土蔵では内子町の歴史に関する展示を行っています。近年は企画展や学習会、体験講座なども始まり、町の歴史を学び、伝える拠点として活用されています。

1月19日には同館が企画した「特別講演会」が開かれ、19人が参加しました。講師の同朋大学仏教文化研究所客員所員・千枝大志さんが、かつて六日市地区に存在した伊勢信仰の拠点施設「伊勢舎」について解説。「町の成り立ちと伊勢信仰が深く関わった可能性がある」と語り、参加者の興味を引いていました。



笑顔でゲレンデを滑走する児童ら

### スキーも、スノボも、雪遊びも 真っ白なゲレンデを堪能しよう

ソルファ・オダスキーゲレンデが12月25日にオープンし、賑わいを見せています。1月23日には立川小・石畳小の児童らが「わんぱく学校スキー教室」（内子東自治センター主催）に参加。インストラクターの指導で見える上達し、雄大なコースで見事な滑りを見せました。阿部真也さん（石畳小6年）は「小学校最後のスキー教室。うまくターンできるようになってうれしい」と満足そうでした。

### 年の始めにみんなで運試し 正月の人気イベント「リアルすごろく大会」

「第4回お正月大風合戦リアルすごろく大会」が1月3日、五十崎風博物館で開かれました。今回は過去最多の161人が挑戦。サイコロを振って館内のマスを進み、糸やガガリなど風になんだ道具が描かれたカードを集めてゴールを目指しました。初挑戦の山竹楓理さん（天神小1年）は「階段を上るコースもあり、建物をいろいろ回れて楽しかった。来年もやりたい」と笑顔でした。



サイコロを投げる参加者。どの目ができるかな

### 舞い上がる炎に願いを込める 各地で「どんど焼き」を開催

正月飾りなどを持ち寄って火に入れ、一年の健康と安全を願う「どんど焼き」が町内各地で行われました。

八日市護国地区町並保存会主催のどんど焼きは1月11日、清正ひろばで開催されました。同地区では過去に住民や観光客など約300人が訪れたという伝統行事。参加者は新年のあいさつを交わし、炎に手を合わせたり煙を体に浴びたりして、無病息災と家内安全を祈りました。



炎が空へ向かって大きく燃え上がった

### 鳥の住む自然環境に目を向けよう 小田川沿いで冬のバードウォッチング

環境学習の一環で「野鳥観察会」が1月11日、小田川緑地公園周辺で行われ、小学生やその保護者など計16人が参加しました。講師の環境マイスター・瀧野隆志さんから解説を受けながら、カワセミやアオサギなど約25種を双眼鏡で観察。鳥の特徴や色、動きなどについて学びました。瀧野さんは「生き物を観察すると環境の変化も分かってくる。よく見てみて」と呼びかけました。



野鳥を見つけた参加者。あそこにいるのは……

### まちの輝きと想いをのせた『広報うちこ』 県市町広報コンクール3部門で特選

令和6年愛媛県市町広報コンクールが1月20日に開かれ、『広報うちこ』が広報紙町部・一枚写真・組み写真の各部門で特選を受賞しました。広報紙部門で受賞の10月号では、設立30周年を迎えた内子町国際交流協会を特集。講評では「関係者の努力、思いが感じられ、国際交流の重要性が伝わる」と評価されました。今後もまちの皆さんの輝きを伝える広報紙を目指します。



一枚写真は12月号表紙、組み写真は9月号で受賞

### 五・七・五に思いを込めて 愛好家らによる「内子町新春俳句大会」

新春の喜びを詠む「第46回新春俳句大会」（内子町文化協会主催）が1月19日、共生館で開かれました。町内外から41人が参加し、それぞれが情景や心情に合う季語を慎重に選んで17音で表現しました。1人2作品を投句し、その中から16句が入賞。最高賞の内子町長賞を受賞したのは、渡辺みどりさん＝柿原＝が詠んだ「ゆりかごへわが家の小春あつめたる」でした。



投句作品の中から入賞句を選ぶ参加者